

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200544
法人名	有限会社 川内介護福祉会
事業所名	グループホーム 川内森の里
所在地	鹿児島県薩摩川内市中郷町6956番地49 (電話) 0996-27-6568
自己評価作成日	令和6年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様一人ひとりのADL把握に努め、できる事の継続を促しながらニーズや希望に応じたケアプランを作成し自立支援に努めている。特に排泄ケアでは排泄パターンを把握し、布パンツに変更するなど、トイレでの排泄の自立支援に努めている。

- ・可能な限り利用者様が自分で選択や決定ができる環境作りを提供し、また定期的な研修を通じてスタッフのスキルアップを図っている。
- ・協力医療機関と連携し、緊急時や感染症時の対策を整えている。
- ・今年度より地域のイベントやボランティアとの交流活動を再開し、毎月の「森の里便り」の送付時、現状報告や推進会議報告、日常の写真を添付して少しでも家族や利用者様が満足し、関係性を継続できるよう取り組んでいる。
- ・当施設にて調理する為、病状に合わせたり、希望や要望を取り入れ、旬の食材や季節の献立、行事食など提供している。また、庭に菜園を作り成長や収穫を一緒に楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所では、年2回の火災避難訓練を実施する他、毎年雨季前に川内アリーナへの水害・土砂災害避難訓練を地域住民の参加も得て実施しており、それらを事業継続計画(BCP)の見直しに活かしている。災害時の地域住民受け入れを予定する等、地域との相互協力体制を築いている。
- ・管理者・職員は家族との面会や外出・外泊による交流を支援し、毎月「森の里だより」と写真を添えた近況報告を送付しており、時にはライン動画を送付する等、家族と利用者の関りが途切れないよう取り組んでいる。
- ・管理者・職員は、利用者に気分転換を図ったり季節を感じてもらえるよう、年間計画を立てて外出支援に積極的に取り組む他、数人での個別遠足を希望に応じて計画し、自宅訪問やドライブを行っている。
- ・代表者・管理者は内外の研修受講により職員の質の向上に努めている。ラインの活用等で職員間の情報共有を図るとともに、良好な人間関係作りや職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をパンフレットに掲載し、ホールや事務所に掲示、申し送りやケース会議時に唱和している。全職員が理念を共有しサービスに繋げている。	理念をホール及び事務所に掲示し、パンフレットにも掲載している。申し送りやケース会議時に理念を唱和し、ケアの振り返りも行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、運営推進会議では地域の地域包括センターや民生委員の参加で、地域の情報を交換している。また地域の生き生きサロンなど感染状況を見ながら参加し、地域の保育園から手作り作品を頂くなど、交流継続に努めている。	自治会に加入し、回覧板等から地域情報を得ている。地域の生き生きサロンに感染状況を見て参加する他、敬老の日に保育園児から手作り作品を贈られ、お返しにおやつを渡したり、近隣住民から野菜の差入れがある等、日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の中で当施設での認知症の方への支援や工夫について情報を共有している。今後は生き生きサロン等を通して発信できる様努めたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所での取り組みや研修報告をし、意見の交換している。民生委員からの独居高齢者や高齢者のいる家族の現状報告を受けて情報共有とともに運営に反映している。	2ヶ月に1回運営推進会議を実施し、事業所の状況報告と意見交換を行っており、災害対策についての助言を事業所の避難訓練に活かしている。今後、ヒヤリハット報告の追加を検討予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは運営推進会議の出席依頼や資料等の持参時に意見交換し、法令の変更時や感染対策の助言をもらい、市の研修をリモート参加するなど連携を密に協力関係が構築されるよう努めている。	市の担当者とは、電話や出向いて会議への出席依頼や相談等を行い協力関係を築いている。市の会議や協議会の研修に参加し相談や情報収集に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を設置し年4回施設内研修・運営推進会議1回リモート研修を含め実施し、全職員参加し拘束の具体的な行為を正しく理解するように学んでいる。言葉の拘束や施錠など、拘束のないケアに取り組み外出希望があれば家族や職員で対応し要望に努めている。	指針を作成し、委員会及び研修会を3ヶ月に1回実施している。スピーチロックは気づいた時に管理者から注意を促すと共に研修にも取り上げている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には職員が付き添って、中庭の畑や近隣の花を眺めて楽しんでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待についての施設内外研修受講し、未然に防げるようケアの振り返りを行い取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、後見制度利用の方もおられるために施設と家族後見人と連携している。また今後も必要性や制度について学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時の契約の際に利用者様のご家族に十分な説明を行い同意を得て契約を行っている。解約の際は、家族の意向を伺い特にトラブルなく行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からは、日々の関わりの中で意見や要望を聞いて対応している。家族からは面会や家族会、電話、運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。要望により個別遠足や家族との外食も行えている。	利用者の要望は日常会話の中で把握し、家族の協力も得て対応している。家族には電話や面会時に要望を聞き、事業所で利用者の衣類や好物等を購入することもある。要望があれば感染状況を見ながら外出・外泊・居室面会にも対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は申し送りやケース会議で意見を聞き、敏速に対応し情報を共有している。定例会も月1回開催し、働きやすい職場環境を目指し、職員間の情報伝達はラインを活用し、個別相談は随時代表者・管理者が対応している。	管理者は申し送りやケース会議で職員の意見を聞き、ケアの統一を図ったり、上司への備品購入相談等に反映させている。個別相談は代表者・管理者が受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の努力や実態勤務状況等把握し、職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修や開催時の参加など積極的に参加できるよう努めている。 悩み事等がないか声をかけたり力量に応じた対応に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北薩地区のGH協議会へ入会している。研修会や、リモート会議に参加したり情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、管理者と介護支援専門員が面談を行い、本人の思いや家族の思いをすり合わせて信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、また利用者様の思いも伝えながら入所してからの生活に関わる全ての人の協力を得ながら安心して生活ができる居場所を提供できるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の想いの確認と、家族の想いを聞きすり合わせを行い家族の協力を得たり、側面的な介護により自立に向けた取り組みができるようなサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を把握し、職員と一緒に掃除したり自主性も尊重し、無理強いせず生活する上で協力して頂ける機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族にしかできない支援も多く、本人様が必要としている場合は御家族に相談しできる限りの面会や電話連絡等無理のない範囲で協力を得て支援して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況によるが、面会希望は事務所での面会を実施している。毎月の便りの送付時に近況とともに写真も添付して、個別遠足では馴染みの場所を訪問したり、自宅で過ごす機会を家族協力のもと実施し関係継続に努めている。	家族や知人との面会での交流を支援し、家族の要望で外出・外泊も対応している。事業所から家族に毎月「森の里だより」と写真を送付したりラインで動画を送ることもあり、関係が途切れないように努めている。自宅訪問に同行することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの日常的な会話の様子や言動から関係性を把握しトラブルを未然に防げる様スタッフが早めに介入する等し、利用者様同士が心地よい関わりができるよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も近くに寄られた際は立ち寄られる御家族様や、施設以外でお会いした場合は話を伺い退所後であっても関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や入浴時・レクリエーション等の個別ケア時や夜間等に思いや希望を聞いている。困難な場合はしぐさや顔の表情から把握し家族の意見も聞き、これまでの関わりの中から、本人中心の支援を検討している。	日常の会話で本人の思いを把握できるよう努めており、個別ケア時や夜勤帯で話されることが多い。困難な場合は、家族の情報を参考に本人の状況を見て推測したり、職員の関わりの中で判断して支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報提供資料や面談時の聞き取りなどをを行い、どういう環境で生活されてきたのか背景を把握できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌や申し送り等一日の過ごし方、心身状態、活動内容、本人の発言等記録し把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議では課題やケアについて話し合い対応を共有している。また申し送り等で本人の状況に合わせたケアを柔軟に対応できる様にしており、現状に合わせた介護計画になる様努力している。	担当者会議を家族やケアマネジャー・管理者・理事長で実施し検討しており、家族の状況により自宅での会議もある。申し送りやケース会議での職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に現状に合った計画に見直している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきや工夫、個別記録と別に申し送りノートに記入し情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人だけでなく、家族の変化や体調なども把握し、職員が御家族の自宅へ送迎したり出向き対応したり柔軟に御家族の課題にも対応できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生き生きサロン、はんや祭りなど感染状況を見ながら参加検討し実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認。協力医の訪問診療を行っている。受診時は家族または職員が同行している。看護職員による日常健康管理も行い、緊急時のかかりつけ医の指示により対応。24時間医療連携体制を整えている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、協力医療機関の訪問診療の利用が多く、24時間の医療連携体制を築いている。他科受診は家族対応を基本にしており、緊急時は職員の対応である。看護の有資格者による日常の健康管理も行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者様の体調や変化の気づきを看護職員へ伝えたり申し送り適切な受診や看護を受けられるよう支援している。また、かかりつけ病院や協力医療連携機関の医師と連携を図り、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフやケアマネが情報提供を早期に行っている。また、カンファレンスの参加や病院関係者との情報交換を行い相互協働体制に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に伴う指針を説明し、同意を得ている。また重度化した場合、主治医や御家族と話し合い施設での対応を協議し方針を決め、支援している。	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書もらっている。特別養護老人ホームの説明は要介護3の段階で行っている。重度化した場合、主治医から家族への病状説明と意向確認を行っている。家族の意向に沿って最大限の支援に取り組んでおり、最終的に入院の選択が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、協力医療機関と協働している研修等に参加し、実践力を身につける様努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成し毎年5月に災害避難訓練と見直しを行っている。民生委員や自治会長、近隣会社には災害時の協力をお願いし、災害時の地元住民の受け入れ場所にもなっている。 備蓄は災害用としてリストを作成し必要量を記入し、担当者が賞味期限の確認と入れ替えを行っている。 避難場所は災害の種類によって決め、原発については市の放送に従うようにしている。	自主訓練の火災避難訓練を年2回昼夜想定で実施する他、年1回川内アリーナへの水害・土砂災害避難訓練を実施し地域の参加協力を得ている。緊急連絡網に自治会長及び民生委員が入っており、災害時には地元住民の受け入れも予定している。事業継続計画（BCP）を策定し、見直しも行っている。非常用の備蓄は、3日分の水・食料を確保している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修やケース会議などで勉強会を行っている。また一人ひとりの人格を尊重し言葉かけに配慮、工夫しながら信頼関係を構築しケアがスムーズに行えるよう会議内で共有している。	研修・勉強会を実施し、一人ひとりを尊重した言葉かけや対応に努めている。同性介助への対応や排泄介助時の声掛け・処置は羞恥心やプライバシーにも配慮して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意志、意向を尊重し、個別介助時のスタッフとの会話で聞かれた言葉や思いを記録に残したり、自己決定ができるよう選択肢を用意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分の確認を行い無理強いせず柔軟に対応できるよう心掛けています。個別活動や居室で過ごしたい時等希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧水の購入や身だしなみのための必要物品等も使用できる環境を整えている。定期的に美容院のヘルパーも依頼し整容が保たれるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を使用したり季節を感じられる食材で職員が調理している。また食欲低下の方に対しては御家族に協力して頂き食べたい物を提供できる様努めている。	利用者の好みを聞いて調理し、個々に応じた食事形態で提供しており、利用者もテーブル拭きや下膳を一緒にしている。食事を楽しんでもらえるよう、誕生日の赤飯や季節の行事食等に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量など記録に残し一人ひとり把握している。とろみの使用や好みを考慮し、お茶以外の提供など家族の協力を得ながら工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ自己にて口腔ケアを促しているが、できない部分は介助し口腔内のトラブルが発生した場合は家族へ連絡し歯科往診依頼している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入所前はオムツを使用していた方でも排泄パターンを把握し少しずつトイレでの排泄が間に合うように誘導したり、リハビリパンツ→布パンツへ自立へ向けた支援を行っている。	排泄パターンに応じた時間で声掛けを行い、日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、リハビリパンツから布パンツへの改善例がある。夜間のみポータブルトイレや尿器を使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、運動や適切な水分摂取量のチェックを行うなどの工夫を行っている。また、水分量の足りない利用者様へは好みのドリンク等を用意し摂取できる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には週2回午前中入浴あり、予備日を1日設けて希望があれば対応できる体制を整えている。同性介助の要望に対応し、また拒否の場合は声掛けの工夫や時間を調整して行っている。体調や気分によりできない時は清拭や翌日に行い無理強いをしないよう努めている。	週2回午前中を基本に入浴を支援しており、希望に柔軟に対応している。同性介助への対応や利用者個人のシャンプーを使用し、ゆっくり入浴を楽しんでもらっている。嫌がる利用者には、タイミングを見計らって声かけする等、無理強いしないように務めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境を整え、体調や気分に応じて休息ができるよう、一人ひとりの睡眠状況もスタッフ間で把握し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に二重チェックを行い、確実に服用されたかの確認を行う。また処方箋の変更があった場合、申し送りにてスタッフ間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現役の頃にされていた仕事などで、施設で行えることを手伝って頂いたり、ご自宅でも嗜まれていた物や行事等での外出など、できるだけ希望にそえるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	戸外に出て気分転換したいときはスタッフが付き添い園庭の散歩支援している。又、自宅などの帰省の希望時は御家族に相談し協力を得ながらできるだけ支援に努めている。	天候の良い日、園庭で外気浴や日光浴・散歩をしている。年間計画を立てて、藤川天神の梅見や川内河川敷鯉のぼり見物のドライブ、個別支援の遠足に取り組んでいる。家族の協力も得ながら、できるだけ戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望された際など、お小遣いで購入できる物を見て選んで頂けるよう、個別遠足などの機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から電話や手紙を書きたいなどの希望があれば、希望にそえるように支援を行っている。携帯電話の持ち込みに対しても充電の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレ・浴室などが木造づくりで森林の香りがする。日当たりが良く高台で季節ごとの景色を眺められる。換気や温度・湿度の調整も空気清浄機や加湿器で環境を整え、また、壁に利用者との共同作品や外出時・行事等の写真を飾り居心地の良い空間に努めている。台所は対面で利用者と会話しながら調理でき自由に入出入りし、お手伝いできる環境に努めている。	空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節されたリビングは日当たりがよく、外の景色を見ながら室内で日光浴ができる。換気は1時間毎に窓を開けて行っており、季節の作品や保育園児のプレゼントの飾り物・写真が飾られた室内で、利用者は日光浴をしたりソファでくつろいでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを配置し、利用者様がゆっくりと安心し、落ち着ける空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室が洋室でエアコン・ベッド・箆笥が設置され、寝具はリースである。加湿器や空気清浄機も必要に応じて持ち込み、本人の馴染みのある毛布や化粧品、家族写真・小物・湯飲み・タオル・テーブル・椅子を置き、ぬいぐるみや本人の作品等を飾り、居心地よく安心して暮らせるように工夫している。また季節に応じて衣類の調節、衣替え等家族の協力を得ながら支援している。	居室にはベッドやタンス・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人は使い慣れた毛布やハンガーラック・クリアケース等を必要に応じて持ち込み、写真やカレンダーを飾って安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に目印をしたり大きな文字で視覚可できる様に工夫している。季節ごとに飾りを変え分かりやすい様に努めている。またカレンダーも目の付く位置へ幾つも飾り、日にちや曜日を分かれるための工夫も行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない